

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-270507
(P2001-270507A)

(43)公開日 平成13年10月2日(2001.10.2)

(51)Int.Cl.

B 6 5 D 1/02

識別記号

F I

B 6 5 D 1/02

テーマコード(参考)

A 3 E 0 3 3

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 3 頁)

(21)出願番号 特願2000-82455(P2000-82455)

(22)出願日 平成12年3月23日(2000.3.23)

(71)出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3丁目2番6号

(72)発明者 嶋田 伸治

東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
社吉野工業所内

(74)代理人 100059258

弁理士 杉村 暁秀 (外2名)

Fターム(参考) 3E033 AA02 BA13 DA02 DA08 DB01

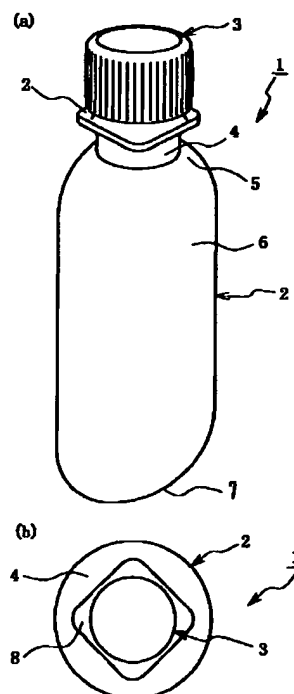
FA03 GA02

(54)【発明の名称】 薄肉容器

(57)【要約】

【課題】 本体のハンドリングを安全かつ確実に行うことのできる薄肉容器を提案する。

【解決手段】 熱可塑性プラスチック材料のブロー成型により形成する、ネック部、肩部、胴部および底部を有する容器本体を具える薄肉容器であって、前記容器本体の肩部、胴部および底部をネック部よりも薄肉に形成した容器において、前記肩部に隣接する前記ネック部の付け根近傍に異形の平面形状を有する鐙状部を設けたことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 熱可塑性プラスチック材料のブロー成型により形成する、ネック部、肩部、胴部および底部を有する容器本体を具える薄肉容器であって、前記容器本体の肩部、胴部および底部をネック部よりも薄肉に形成した容器において、前記肩部に隣接する前記ネック部の付け根近傍に異形の平面形状を有する鋤状部を設けたことを特徴とする薄肉容器。

【請求項2】 請求項1記載の容器において、前記鋤状部を、少なくとも互いに略平行に延在する二辺を有する平面形状としたことを特徴とする薄肉容器。

【請求項3】 請求項1記載の容器において、前記鋤状部を、その平面形状を多角形状としたことを特徴とする薄肉容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、熱可塑性プラスチック材料をブロー成型することにより形成する薄肉容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】かかる薄肉容器は、飲料、洗剤等の容器として幅広く利用されているが、近年、使用後の回収を容易にすべく、容器本体を潰す等して減容させることが簡単に行えるように本体の肉厚を薄くした薄肉容器が作られている。

【0003】しかしながら、こうした薄肉容器の場合、容器本体の肉厚が薄い故に、ハンドリング、すなわち内容物（飲料、洗剤等）の充填やキャップの取り付け時等において、容器本体の搬送や保持を安全かつ確実に行うことが困難であるという問題がある。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記の問題点を解決し、ハンドリングを安全かつ確実に行うことのできる薄肉容器を提案するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】それゆえ本発明は、熱可塑性プラスチック材料のブロー成型により形成する、ネック部、肩部、胴部および底部を有する容器本体を具える薄肉容器であって、前記容器本体の肩部、胴部および底部をネック部よりも薄肉に形成した容器において、前記肩部に隣接する前記ネック部の付け根近傍に異形（円形でないもの）の平面形状を有する鋤状部を設けたことを特徴とする。

【0006】本発明による薄肉容器は、容器本体のネック部の付け根近傍に鋤状部を設け、この鋤状部で容器本体を保持できるようにしている。通常、このネック部は、他の胴部等よりも肉厚であることから、この部分で容器本体を保持でき、安全かつ確実な搬送等が行えることとなる。特に鋤状部を異形（円形でないもの）とした

ことにより、より確実に容器本体を保持できるようになる。

【0007】本発明による薄肉容器の好適な実施形態においては、前記鋤状部を、少なくとも互いに略平行に延在する二辺を有する平面形状としても良く、または、その平面形状を多角形状としても良い。それによって、特に容器本体にキャップを装着する際に、装着作業を行うための、例えばロボットハンド等が、より確実に容器本体の保持および取り外しができることとなる。

10 【0008】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の好適な実施形態について説明する。

【0009】図1は、本発明による薄肉容器の一例を示すもので、ダイレクトブロー成型や二軸延伸ブロー成型などの成型方法を用いて成型されるものである。図1(a)に示すように、本容器1は、本体2とキャップ3とを具え、本体2は、ネック部4、肩部5、胴部6および底部7からなる。図示の容器1では、ネック部4には図示しないねじ山が設けられており、キャップ3内面に設けた図示しないねじ山と螺合することにより、容器1内部が密閉される。

20

【0010】ネック部4が肩部5と接続する部分、すなわちネック部4の付け根の近傍には鋤状部8が設けられている。鋤状部8は、この容器本体2のハンドリングを容易かつ確実に行うために設けられているもので、キャッピング時や搬送時には、例えばロボットハンドの先端に設けたフォーク型の保持具（図示せず）で鋤状部8の略平行に延在する二辺を保持することにより、または、この鋤状部8と肩部5との間に滑り込ませることにより、容器本体2を保持することが可能である。

【0011】図1(b)に示すように、鋤状部8は略正方形形状をなしている。このような形状とすることにより、容器本体2にキャップ3を装着する際、容器本体3を、例えばキャップ装着機構（図示せず）で確実に保持および取り外しができるようになる。

【0012】なお、鋤状部8は、その平面形状が少なくとも互いに略平行に延在する二辺を有する多角形状であれば、正方形に限定されるものではない。また、その他に、一対の半円の間に長方形を配置した、いわゆるレーストラック形状等としても良い。

【0013】以上説明したように、本発明による薄肉容器は、その容器本体のネック部に異形（円形でない）の平面形状を有する鋤状部を設けている。そのため、容器本体のハンドリングやキャップの装着作業が安全かつ確実に行うことが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る薄肉容器の実施形態の外観を示す図である。

【符号の説明】

1 薄肉容器

50

(3)

特開2001-270507

4

3

2 容器本体
3 キャップ
4 ネック部
5 肩部

6 胴部
7 底部
8 鋤状部

【図1】

